

令和2年度新潟市花育推進委員会

日 時：令和3年2月4日（木）午前10時30分～

会 場：新潟市食育・花育センター 2階講座室

司 会	<p>定刻となりましたので、只今より、令和2年度新潟市花育推進委員会を開催いたします。本日の進行を務めさせていただきます食と花の推進課岸本です。よろしくお願いいたします。</p> <p>では、開催にあたり、食と花の推進課長の坂井より皆様にごあいさつ申し上げます。</p>
食と花の 推進課長	<p>皆様おはようございます。食と花の推進課の坂井と申します。</p> <p>今回このように zoom というものを使い、我々も慣れていない部分もあるのですが、皆様もし不具合がありましたら、いつでも申し出ていただければと思います。</p> <p>今回、本来であれば、この会議は例年、年度当初に行われていましたが、コロナの影響で年度末になりましたことをまず、一言おわび申し上げます。</p> <p>今年度コロナの影響がありまして、私どもの食と花の推進課でも、花の業界の皆様を支援したいということで、特に冠婚葬祭がほとんどなくなってしまったということで、切り花の需要が落ちてしまいましたので、そこへの支援として、新潟市産のお花を1,000円以上買うときに500円の割引ができるという制度を6月から始めさせていただいております。今月末まで、お花屋さんに行くとそのクーポン券が置いてありまして、それを使えますのでぜひ皆様から、宣伝もしていただきたいですし、使っただければと思っています。</p> <p>また今、チューリップが新潟で最盛期を迎えておりまして、今週からNEXT21と、昨日からビルボードプレイス、今週末は新潟駅でチューリップの展示を大々的に行っております。</p> <p>今週末につきましては、東京駅でもチューリップを展示させていただいておりますが、東京駅のグランスタ東京という、地下のお土産物がたくさん集まっているところがありますが、そことコラボレーションしまして、そこのお菓子和新潟市産のチューリップをセットでの販売を今週末予定しております。今、新幹線がガラガラなので貨物として使うという取り組みをしまして、新潟市からチューリップを貨物で送っております。その貨物を使い、グランスタ東京のお菓子を新潟に持ってきて、今週末いろいろな種類の東京のグランスタのお菓子が新潟駅で買えますので、ぜひ駅にも足を運んでいただければと思います。</p> <p>今日の会議ですが、令和元年度、昨年度の実績報告と、今年度もだいぶ過ぎてしまいましたが、取り組みについてご報告をさせていただきます。</p> <p>あわせて、皆様に事前にご協力いただきました「花育俳句」大変好評いただいております。たくさんのご応募がありました。皆様から審査をしていただきましたが、その最終審査もあわせてお願いしたいと思っておりますので、1時間半というお時間になりますが、ぜひともよろしくお願いいたします。ありがとうございます。</p>
司 会	<p>では、議事に入る前に4点確認させていただきます。</p>

	<p>1 点目は会議の出席状況でございます。10 名の委員のうち、本日 8 名の出席になってございます。欠席は青山委員、片岡委員、お二人です。それと岸本委員、中野繁子委員、中野優委員、横山委員が会場での対面でのご出席です。坂上委員、須田委員、玉木委員、八百板委員はオンラインでのご出席です。</p> <p>また、例年ですと市側の関係課としていろいろな課がこちらの会議に参集していますが、このコロナ対策ということで会場内の人数を最小限に抑えることを考えまして、今回、出席していないということをご了承ください。</p> <p>2 点目は配付資料の確認でございます。事前に配付させていただいた資料は 8 種類でございます。まず次第が 1 枚、座席表が 1 枚、令和 2 年度委員名簿が 1 枚。この次は資料になります、用紙の右上に資料 1 と書いてあるホチキス止めで 3 枚入ったものが 1 つ、資料 2 がホチキスで 4 枚、資料 3 がペーパー 1 枚、資料 4 がペーパー 1 枚。あと冊子になりますが「令和元年度多面的機能支払い交付金活動事例集」という少し厚いカラーのものが 1 部。追加で、資料 5 「花育俳句最終審査について」というものをメールで送らせていただいております。</p> <p>不足はありませんでしょうか。リモートの皆様も大丈夫でしょうか。ありがとうございます。</p> <p>3 点目は会議の録音についてでございます。当会議は公開となっておりますので、後日、議事録等をホームページ等に掲載することを踏まえ、会議を録音させていただきますのでご了承ください。</p> <p>今日、取材等の申し込み、傍聴人は今のところおりません。</p> <p>4 点目、最後になります。委員の改選についてでございます。昨年度の委員会で皆様の任期を 2 年延長させていただきました。今年度末をもって任期が終了いたします。第 3 次の計画策定との関連がありますので、議事の中でくわしく説明させていただきます。</p> <p>それではこれより次第に従い議事に入ります。会長の中野優委員には会長席へご移動をお願いします。</p> <p>では、ここからは中野会長より議事を進行していただきますので、中野会長よろしくお願ひいたします。</p>
<p>中野会長</p>	<p>中野優です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>本日、委員の皆様方には、対面、それからオンラインでのご参加どうもありがとうございます。</p> <p>では早速会議を進行させていただきます。</p> <p>進行の方法としましては、全部で議題が 4 つありますけれども、そのうちの 1 番と 2 番をまずご説明いただきまして、それがすべて終わった時点で皆さんのご意見、ご質問等をお受けしたいと思います。</p> <p>それではまず（1）の令和元年度花育推進事業の取り組みについて、事務局より説明をお願ひいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>食と花の推進課、佐藤と申します。マイクを替えましたが、皆さんに音声は届いていますでしょうか。大丈夫でしょうか。</p>

資料1をご覧ください。昨年度の実績について報告させていただきます。まず1ページの数値指標の取り組み一覧表をご覧ください。それぞれの指標に関する取り組み概要については2ページ以降に記載しております。

まず1、情報紙の発行部数ということについては、平成30年度から予算等の関係で部数・発行回数ともに減少しまして、令和元年度も6,000部の発行という内容になっております。

2、花育関連講座の受講者数については、食育・花育センターにおいて、各種園芸講座、寄せ植え講座、ハーブ、アロマ等の講座などを開催しまして、受講者数は2,203人、回数は90回でございました。平成30年度と比較しまして、回数は増えましたが、受講者は若干減少しているという状況です。

3、花育の日・花育月間の推進についてです。花の小売店の協力のもと、のぼり旗の掲揚のほか、各店独自の取り組みを行いました。秋の体験については11月に新潟空港で行われた「新潟空港そらフェスタ」で「野菜の花クイズ」を実施しまして、500人に参加していただきまして、花育の絶好のPRとなったかと思っております。

4、花育マスターの派遣件数ですが、令和元年度から制度を変更しまして、今まで市から報償費を支払っていましたが、それが令和元年度からなくなってしまいました。それに伴ってマスターの登録者数も減少しているという状況になっております。地域の活動の柱としていたわけですが、ボランティアや人材育成に関することは、同じく制度を変更した食育マスターでも課題となっておりまして、今後検討が必要かなと思っております。

5、花育団体体験プログラムの実施についてです。小学校、保育園、幼稚園等の要望に応じたプログラムを実施させていただきました。実施校数数は82回2,816人となっております。内訳が、2ページの(5)に書いてあるとおりとなっております。

6、保育所、幼稚園、小学校の地域の連携による花育活動については、全体では60パーセントで若干上昇しております。毎年市内の公立の学校等にアンケート調査により把握をしております、その内訳が2ページの下段に示すとおりとなっております。例年各分野とも花育活動の実施率というのは高いのですが、学校や幼稚園に比べて、保育園の地域の連携の割合が低いという値になっています。これは3ページの上に記載したとおり、地域と関わるコーディネーターの存在がないため、子どもたちの地域との連携が課題となっております。

7、生産現場の花育活動登録数については、昨年度と変わりませんでした。これは実態として農家と学校等が連携している取り組みというのは多いと思っております。花育マスターへの登録ということが目標になっていますが、連携している活動にスポットを当てて、持続的にどう取り組んでいくか。そういう体制づくりが必要ではないかと考えております。

8、緑化活動推進事業の実施団体数については、実施団体は348団体でした。これは昨年より若干減少しています。

9、新潟の花や緑について生産者や流通の現場で学ぶ講座等の受講者数については、花の産地である秋葉区において、生産者現場を巡るバスツアーや、栽培講習会を実施

	<p>しまして 120 人の参加がありました。2 月末以降にも予定していたのですが、新型コロナウイルス感染症で中止しまして、花が最盛期を迎える時期に影響を受けたという状況になっております。</p> <p>なお昨年度は、チューリップ球根商業生産発祥 100 周年でありました。秋葉区や、地元園芸業者などが、チューリップ球根生産 100 周年事業実行委員会を作りまして、184 品種 15,000 球の球根をボランティアの方々と一緒に植えつけを行っております。</p> <p>10、多面的機能支払交付金事業を活用した植栽による景観形成等の取り組み率については、85.7 パーセントの内容になっていました。</p> <p>次に 4 ページです。2、その他の取り組みについてです。</p> <p>(1) 花育俳句については、昨年度から始めた取り組みになります。芸能人が俳句を作って順位をつける某テレビ番組の影響もありまして、全国から 292 人、543 句の応募がありました。この取組みを通じて、新潟市が全国的な花の産地で、花育に取り組んでいるということを知ってもらう大きなきっかけになったのではないかと考えております。</p> <p>4 ページの 3、関係団体と連携した取り組みについてです。(1) にいがた花推進委員会と連携した、「新潟の花を贈ろう」キャンペーンについてです。表に示すとおり、食育・花育センターにおいて 5 回実施しました。5 ページに実施状況の写真を添付しております。</p> <p>(2) にいがた花絵プロジェクト実行委員会と連携した花絵制作についてです。G20 新潟農業大臣会合開催を記念しまして、新潟駅南口広場にて実施しました。</p> <p>次に、(3) 新潟市版「花いっぱいプロジェクト」、6 ページです。新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴い、全国的に卒業式の式典や各種イベントが相次いで中止となったため、3 月のチューリップの最盛期に需要が減少しまして、価格も下落しました。そこで全農にいがた等と連携しまして、市がチューリップを買い上げて、小学校 91 校、特別支援学校 2 校、新大附属小学校の計 94 校、約 5,600 人の卒業生に、チューリップのミニ花束をプレゼントしました。3 月に突然の休校措置が取られたために、在校生がいないなど必要最低限の人員による卒業式だったようですが、このチューリップが学校生活最後の思い出作りに、花を添えたのではないかとと思います。</p> <p>またこれから新生活を少しでも明るい気持ちで迎えてもらいたいと思ひまして、区役所などでチューリップの展示を行いました。</p> <p>令和元年度の取組みについては以上になります。</p>
中野会長	<p>ありがとうございました。続きまして (2) 令和 2 年度花育推進事業の取り組みについて引き続きご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは引き続き説明させていただきます。資料 2 をご覧ください。</p> <p>今年度は昨年度以上に新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたので、その状況などをお知らせさせていただきます。</p> <p>また昨年度の委員会で、委員の皆様から花育の日や、花育の普及活動を効果的に行うためのご意見を頂きました。ありがとうございます。そのご意見を踏まえて、どのような取組みをしたかが分かるように説明させていただこうと思ひます。</p>

1、数値指標の取り組みのうち、(1) 情報紙の発行についてです。昨年度、花育というものが抽象的で分からないので、花育通信に、例えば花育マスターなどから花育コラムを寄稿してもらったらどうか、同じく花育通信などに、協力店を紹介してはどうかというご意見を頂きましたので、早速そのご意見を反映した花育通信を作成しました。発行の都度、委員の皆様にお配りしているのでご覧になっているかと思えます。今後もさまざまな方からご協力いただきながら、こういった形の内容を掲載していければと考えております。

(2) 食育・花育センターで実施している園芸講座についてです。4月、5月に緊急事態宣言が発令されたため、園芸講座及び花育ミニ体験の実施を中止せざるを得ませんでした。6月以降再開したものの、密を防ぐなど感染症対策をしながらの実施であるため、例年に比べ少ない実施状況となっております。

2 ページ目 (3) 花育の日の取り組みについてです。4月は協力店と連携したPRを行いまして、25社38店舗から参加いただきました。協力店が実施したアンケートからは、肯定的なご意見が多くありました。一方、食育・花育センターで予定していた体験は中止としました。秋の取組みは10月25日に食育・花育センターで感染症対策を行った上で「チューリップクイズとチューリップ球根植えの体験」を実施しました。51組115人から参加いただきました。

講師の花育マスターの方からチューリップクイズを行ってもらうことで、よりチューリップに関心が高まったようでした。

3 ページ目 (4) 団体プログラムの実施についてです。食育・花育センターが、小学校や保育園・幼稚園を対象に、花育に関する体験活動を提供していますが、こちらも緊急事態宣言を受けまして、4月、5月は中止せざるを得ませんでした。6月以降に再開したものの、移動のバスが密になるなどでキャンセルが相次ぎまして、例年に比べて少ない実施状況となっております。こうした状況や、昨年委員から食育のように認知度を上げるために、市・学校団体などが連携すべき、義務教育で必須科目にしてはどうかというご意見を受けまして、食育・花育センターで、幼稚園・保育園に職員が出向くという、出張プログラムを開発しました。いわゆる待っているだけではなく、出向いて教えるという内容になっています。プログラムを実施した園からは、とても好評であると感想をもらっています。内容を見ると、現在は食育に関するものが多いです。花育に関するプログラムも充実させることで、花や緑に触れる機会を、小さい子に増やしていければと考えています。

(5) 生産者や流通の現場で学ぶ講座関係です。生産現場を巡るバスツアーや、栽培講習会などは、新型コロナウイルス感染症の影響で中止としました。またチューリップ球根商業生産発祥100周年記念で植えたチューリップを楽しめるように、自由に散策できるようにしましたが、式典など予定していたものは中止となっております。

(6) 多面的機能支払交付金事業を活用した景観形成等への取り組みです。具体的な取組みが分かるように事例集をお配りしましたので、くわしくはそちらをご覧ください。ただければと思います。

4 ページ目、2、その他の取り組みのうち (1) 花育俳句についてです。昨年に引

き続き全国に募集したところ、一人3句までから2句に減らしたのにも関わらず、778人、1,130句の応募がありました。昨年度の約2倍の応募数になります。俳句を通して花に関心を持っていただけたと思いますし、新潟市が花の産地で花育に取り組んでいるということが、昨年度よりもさらに効果的に知っていただけたのではないかと思います。

議事の後半では今年度の優秀句の決定についてまた説明させていただきます。

(2) フルフルフラワーキャンペーンです。花は式典やイベントなどを彩るためにとても重要になりますが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催自粛や中止を受けまして、花の需要が著しく低下しました。そこで市と関係機関が連携し、家庭内需要や業務需要を喚起する取組みを進めました。

具体的には①割引券を活用した市内産花きの需要消費拡大支援です。先ほど課長から説明がありましたが、本事業に参加した市内の生花店等において1,000円以上の市内産花きを購入した市民に対し、500円相当の割引を実施するものです。1月現在で市内68店舗から参加いただきまして、2月26日までこの取組みを実施しております。利用者は参加店で割引券を入手しまして、氏名、居住地、性別、年齢を記載して利用することになります。本委員会の中野繁子委員の店も参加いただいています。

昨年度、委員から市民や花の小売店向けのアンケートを実施してはどうかとの意見がありましたので、この取組みで割引券を活用した購買層などを把握することができますし、今まで薄かった花の小売店とのつながりもできましたので、今後の取組みに生かしていければと考えております。

5ページ②市内公共施設等での展示では、花きに対する消費マインドを喚起するため、3月末まで公共施設や新潟駅などで花の展示を行っています。展示には市内の小売店などから携わっていただきまして、本委員会の坂上委員、須田委員、横山委員からも、ご協力を頂いております。花でまちを彩る花のまちとしてPRするためにも、可能な範囲で継続していく必要があるのではないかと考えております。

③広告宣伝です。昨年度パブリシティへの取り上げ、ラジオ・テレビでのプロモーション利用、若い世代に届く発信というご意見がありましたので、テレビ局等とのタイアップによる、チューリップを中心としたプロモーションを今、実施しております。具体的には地元民放4局と連携しまして、各局のパーソナリティー、アナウンサーを宣伝キャラクターに起用したポスター、ビジュアルの掲出、各局番組での宣伝、紹介、動画の作成なども進めているところです。

6ページ目、3、関係団体と連携した取組みのうち、(1)にいがた花推進委員会と連携したキャンペーンです。これは毎年実施している取組みですが、母の日については新型コロナウイルス感染症の影響で中止としました。そのほかの取組みについては、例年、食育・花育センターで実施していますけれども、今回はNEXT21や郵便局・銀行、新潟駅など、広く人の目に触れやすい場所で実施しています。

7ページ目(2)にいがた花絵プロジェクト実行委員会と連携した花絵制作です。4月29日の祝日に28年目となる取組みを予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。花絵プロジェクト実行委員会は、花絵制作のほか

	<p>に、チューリップを楽しんでもらう、生産者にエールを送る目的で冬のチューリップを販売する「Sundayだけのチューリップ花屋さん」という取組みを実施しています。例年は事務所がある本町で実施していますが、今回は万代シテイで実施されました。場所を変えたことで集客が不安だということでしたが、大変売れ行きがよくて、35種類1,700本が早めに完売したと聞いております。これまで花関係のイベントの場所としては、主にこの食育・花育センターがメインになっていたのですが、昨年度、委員から、無関心層はそもそも足を運ばないというご意見がありました。今回の花絵プロジェクトの実行委員会の取組みは、そのご意見のとおり、人の集まる場所で実施することで、無関心層や、少しだけ花に興味のある層に花の魅力を喚起できた好事例ではないかと思われました。この辺は横山委員が関わっているので、後でいろいろお話しいただければと思います。この取組みは3月にも実施する予定だそうです。</p> <p>以上で令和2年度の説明を終わります。これまで説明した取組みに関わっている委員の方が多いですので、取組みの反応ですとか、ご感想などを頂けるとありがたいと思います。</p>
<p>中野会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ただいまご説明いただきました、議題の(1)と(2)をあわせてご質問、ご意見等ありましたら、委員の方からお願いいたします。</p>
<p>須田委員</p>	<p>質問がありまして、新潟の花や緑について生産者や流通の現場で学ぶ講座というのは、今年はされなかったということですが、これは市政バスを使って平日に行われているものですか、その内容を知りたいと思ったのですが。</p> <p>資料1の9です。生産者や流通の現場で学ぶ講座。</p>
<p>須田委員</p>	<p>やはり、平日の昼間だと行かれる方は、やはり毎日がサンデーの人などではないかと思ひまして。いろいろな取組みをされている中で、出張講座とか、今まで食育・花育センターでやられていた講座を館外へ出られたりと工夫をされていて、無関心層に向けての発信でいいなど。今バスで旅行しても密になるので、少し難しいと思いますが。やはり生産者の方への影響ということがあって、市政バスだと現場に直接、訪れるのはとても大切なので、ここを平日だけでなく土日でもできるような。多分、市の職員の方が運転手だと思うのですが、ここをもう少し参加者、ターゲットというか、若い人が参加できるような日に実施できるような工夫があるといいなと思ひました。</p> <p>もう一つ花育俳句についてです。対象は全国に対して、新潟の花育をやっているということをPRするためとおっしゃっていたと思うのですが、新潟市民や県民に対してもう少し参加してもらおうような仕掛けとか、そういうものがあつたほうがいいと思ひます。</p>
<p>中野会長</p>	<p>ありがとうございます。事務局はいかがですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。秋葉区のバスツアーについては、すみません、大変申し訳ないですけれども、内容の詳細を把握していない部分もありますが、確かに平日だとなかなか参加できない方もいらっしゃるし、やはり若い人も参加できるような仕組みは必要ですので、その辺関係機関と連携しながら、実施したいと思ひています。</p> <p>花育俳句については、特に全国にだけというものではないのですが、やはり花育に</p>

	<p>親しんでもらいたいということで取り組んだ内容になります。今年も圧倒的に全国からの応募が多くて、市民の方の割合は1割くらいだったので、やはり新潟市の花育を進めているということもありますので、市民の方に委員のおっしゃるような形で周知できるような、そういった仕組みも今後、考えていきます。</p>
須田委員	<p>昨日、一昨日ですか私遅くに提出したのですが、力作揃いで、真剣に読ませていただいたのですけれども、ああいう方たちが花育のPRの文書とか、そういうものにも積極的に取り上げて、これは結局、選ばれた句は、何か賞品とかあるのでしょうか。交通標語みたいにどこかで標語にしてということはあるのですか。どういう形の表彰などあるのでしょうか。とてもよい内容なので、いろいろなところに掲載なり、もう少し光を当てたらいいのではないかと思うようなレベルの作品だと思いました。</p>
事務局	<p>花育俳句の景品については、鉢花か球根で、特に特別なものをプレゼントするわけではないのですけれども、それなのにけっこう大勢の方から応募いただきました。この優秀句については、市のホームページですとか、花育通信にも載せますし、応募いただいたすべての句も市のホームページに掲載する予定にしております。</p>
中野会長	<p>須田委員よろしいでしょうか。ありがとうございました。 ほかにご意見、ご質問等ございますか。</p>
坂上委員	<p>いろいろな方から質問というか、聞かれてしまうのですが、お花の展示をあちこちでされていますよね。NEXT21とか、万代遊歩道とか、どちらの花屋さんがやっているんですかと一般の人から私に聞かれたりするのですが、そういうのをプレートなどで展示はしないのですか。もしくはどこの花屋さんにお問い合わせするか、決めるのか分かるとうれしいと思います。</p>
事務局	<p>今年度とてもたくさんところで展示させていただいていますが、いろいろなパターンがありますが、区役所やNEXT21ですと、特に区役所などは、そのエリアの花屋さんにやりませんかと声をかけて、手を挙げてくださったところに順番にお願いします。今、区役所は通年で展示をしていますので、そういった形で花屋さんにお問い合わせしています。もう一つのご質問がよく聞き取れなくて、何でしたでしょうか。</p>
坂上委員	<p>区役所などはけっこうプレートがあるのですが、ビルボードや駅などは、プレートがないような気がします。よく探せばどこの花屋さんがやったというプレートはあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>そういうことですか。その花屋さんの名前を表示したほうがいと。それはそうですね。ビルボードプレイスや駅ですと、今度は見積もり合わせとか、イベント業者にその辺のいろいろなイベントとあわせて丸ごと委託しているものになりまして、その業者を通じて花屋さんについているというところがあります。ですので、展示に表示ができるかについては、委託しているイベント業者と話をしてみて、可能であれば実施する方向で検討したいと思います。</p>
坂上委員	<p>ぜひそうしてください。花屋さんの励みになるとと思います。お願いします。</p>
中野会長	<p>ありがとうございました。ほかいかがでしょうか。</p>
横山委員	<p>フルフルフラワーキャンペーン、いろいろな効果もあって、500円の割引券もとて</p>

	<p>も興味を持って使ってらっしゃる方も多いような感じがいたしますが、やはり紙物で、最初は市報新潟での掲載、今は花屋さんにおいてあるという形になってはいますが、やはり若い方々はSNSのクーポンという形で、画像で手に入れられると、先ほどこちらにありましたが、認知度が低い層というふうに多分20～30代への認知度も広がるのではないかと考えていました。</p> <p>余計な話ですが、東京の花き関係の方と話してましたら、やはりともかくインスタになんでもいいから毎日アップすると、言い方は悪いですが、引っかかるんだよねというか関心を持ってきて、それが今やはり20代、30代の方が非常に多くなってきて、今まであまり関心を持っていなかった層の方がむしろInstagramを通じて花に興味を持ち、かつ実際に買いに来てくれる。あとスクールで花の体験レッスンを受ける。そういった新たなものが見えてきたという話をちょうど昨日聞いたところです。</p>
事務局	<p>フルフルフラワーキャンペーンのクーポンにつきましては、当初、市報にいがたに掲載しましたが、1回きりの発行だったので、それではなかなか使っていただけないということで、9月からお店に置く形に変更させていただきました。やはり若い方への花の浸透は、とても課題だと思っております、いろいろなことを考えてはいたしましたが、やはり管理の問題や、支払いの問題などいろいろなことがありまして、フルフルフラワーキャンペーンのクーポンにつきましては、紙媒体でという形にさせていただいております。</p> <p>横山委員のおっしゃられたとおり、インスタや、若い方はSNSをばんばん使っていらっしゃるので、今ビルボードプレイスでやっている花の展示につきましては、SNSのInstagramのキャンペーンをあわせて行っておりまして、そのビルボードプレイスの花の展示のところに行って写真を撮ってもらって、それをインスタに上げると、お花のプレゼントをしますよというようなことをちょうど今やっている最中なので、こういった若い方へのアプローチも、今後SNSを活用して、ぜひできたらと考えております。ありがとうございます。</p>
中野会長	ほかにございますか。
岸本委員	<p>この課題から外れてしまう内容かもしれませんが、花育マスターが球根なり、種なりを植えるというところから育てる。そして小学校、保育園を対象に、そういうところで育てていって、それを育てるのは子どもたちということで、育てて成長した花を最後に切り取って、どこかの学校や保育園、もしくは一輪挿しを持ち帰って自分たちの家に飾ると。飾るに当たっても、そんな大した花瓶ではなくて、自分たちが持ち寄った小さなコップでも、それか紙コップでも、それをうまく使って最後までお花を楽しむというところまで結びつけられないかと思っております。確かに花を植える、そして育てるところまではいくのですけれども、最後まで花を楽しむというところまで、そしてそこで最後まで花育ということが子どもたちに浸透するのではないかという形で考えておりましたので、そういうところも結びつけていけたらなと思っております。</p>
中野会長	貴重なご意見ありがとうございます。この件に関しまして、事務局で何かあります

	か。
事務局	ありがとうございました。けっこう子どもたちは農業体験などをやるのです。そこで最後収穫して食べるというところは食ではあるのですけれども、花は、育てるところがあって、最後まで飾るところまでは、確かに今まで不足していたなという部分があるので、そこも子どもたちと連携しながら取り組めたらいいなと思いました。貴重なご意見ありがとうございました。
事務局	少しターゲットがずれてしまうかもしれないのですが、実は今、チューリップのキャンペーンの一環で、園芸王子といって新潟市出身の三上さんというNHKで活躍されている方がいらっしゃいますけれども、その方にユーチューブで花の飾り方の動画を撮らせていただく予定にしています、そこでは三上さんは、すごく積極的に考えてくださっています、それこそ今、先生がおっしゃったとおり、例えば、花瓶でなくても、コップでも、お皿でも飾れるのだということもぜひやったほうがいいですよと言っていて、そういったような内容になっていくのかなというところがありますので、今年度中にユーチューブで公開できると思いますので、また市民の皆様にもお知らせしていきたいと思います。ありがとうございます。
中野会長	それは楽しみです。ありがとうございます。 ほかいかがでしょうか。
八百板委員	意見というよりも感謝です。新潟市版「花いっぱいプロジェクト」で、市内小学生卒業生にチューリップのミニ花束をプレゼントしていただきました。当校もこれを頂きました。コロナ禍でほっとするすてきなプレゼントで、花の力はということを改めて実感したところです。たぶん、市内の小学校は感謝の気持ちでいっぱいだと思いますので、私のほうからお伝えいたします。すてきな取り組みありがとうございました。 それから、今ほど、最後まで花を楽しむという話なのですが、実はあまりそういう発想が若い人たち、学校の者も知らないと思います。うちも昨年初めて花育マスターの方に来ていただいて、花壇に植えた花を後片付けするときに、前年度まではまだお花が活着しているものも抜いてしまって、そのまま終わってしまっていたのですけれども、花育マスターの方から、それを今度、おうちに持って行って、おうちの庭で植えるといいよというお話を頂いたのです。そのときには目からうろこで、そうかと思いました。ですので、そういったものを学校のほうにも伝えていただくと、また次の活動につながるのではないかと、改めて実感して思ったことですので、お伝えさせていただきます。ありがとうございました。
中野会長	ほかご意見、ご質問等ございませんか。
横山委員	先ほど、にいがた花絵プロジェクトの話を事務局からしていただきまして、ありがとうございました。今回、万代シテイで昨年末の12月に約1,700本のチューリップの販売をさせていただきました。目的としては、活動資金がとても不足しているもので、それを稼ぐためということでした。もう一つは、新潟市民の皆様にはチューリップはかわいいということを知っていただけたらいいなというところでしたが、ひとことで言うと大好評で、先ほど、ご説明いただいたように、初日分は1時、2時くらいにほぼ予定数が売れていたのですが、2日目の分も出しまして、うっかり売ってしまって、2日

	<p>目がとても数が少なくなりまして、1時ごろには完売してしまったという状況です。課長もその後、お見えくださったという話を聞きまして、この場を借りて、ご足労いただいたのに申し訳ありませんでした。</p> <p>そんな感じで、とても場所が万代シテイといったイベントをやる場所を選びますと、はっきり言うと人情横町よりも数倍の人がお見えになり、交流がなくても立ち止まって見ていただく。一声かけて話をする方。新潟のチューリップはこんなに種類があるのと。30種類以上並べましたので、そういったチューリップの周知ということにもなったと思います。万代シテイのような場所でやるのが、とても効果的だなと実感いたしましたし、冬の寒い時期にぱっと明るくチューリップというものがすごく受けたのかなと思っています。感想ということで終わらせていただきます。</p>
<p>中野会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、そろそろ次の議題に移りたいと思います。</p> <p>続きまして、(3)の新潟市第3次花育推進計画の策定スケジュール(案)について、事務局からご説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず、現在の第2次計画について改めて説明させていただきます。計画期間は、平成27年から令和4年度までの8年間となっております。第2次計画が終了した後、令和5年度から第3次計画に移行したいと考えておりまして、来年度の令和3年4月から2年をかけて第3次計画を策定していきたいと考えております。本日は、委員の改選、策定までのスケジュール案等について、現時点での事務局案をお示しさせていただきます。</p> <p>最初に、委員の改選についてです。委員の選考は、新潟市花育推進委員会設置要綱というものがございまして、それと新潟市附属機関等の指針に則って行います。委員の任期は通常2年ですが、現在の委員の皆様は、当初、平成29年4月から平成31年3月31日まででしたが、2年の延長をお願いしまして、今年度末の令和3年3月31日までが任期となっております。今年度末で一旦、皆様の任期が終了しますので、来年度から新たな体制で進めたいと考えております。委員の選考に当たっては、先ほどの設置要綱の中身でいうと、学識経験を有する者、花生産流通関係者、教育関係者、市民、その他市長が認める者から10名以内で構成するということになっておりますので、これまでの委員会での議論の中身ですとか、関係者の話を聞きながら、今後、事務局のほうで詰めていきたいと考えております。</p> <p>次に、スケジュール案についてです。資料3をご覧ください。当委員会は、通常年1回の開催になっておりますが、第3次の計画策定があるため、来年度は年2回の開催を予定しておりまして、第2次計画の現状把握ですとか、第3次の計画の方向性の検討を行ってまいります。それらを受けまして、骨子案・計画案の検討に入りますが、必要によっては、市民向けのアンケートですとか、先ほどのフルフルフラワーの購買層の分析なども考慮しながら実施していきたいと考えております。</p> <p>年度が変わって、令和4年度では年3回の開催を予定しておりまして、計画案をより具体化していく作業になるかと考えております。会議でのご意見など反映しまして、議会報告やパブリックコメントを経て、令和4年度末(令和5年3月)に公表しまし</p>

て、令和5年の4月から第3次の新計画開始と考えております。

続いて、資料4をご覧ください。私は今年度から花育に携わらせていただいているのですが、いま一度、花育の定義や新潟市が目指す花育について、皆さんと目線合わせをできたらということで作成した資料になります。上段の四角で囲まれた内容というのは、農林水産省や全国花育活動推進協議会が提唱している花育の定義になります。この定義だけ見ると、下のポンチ絵を作ったのですが、緑色の花や緑の効用だけの内容になるかと思ひまして、これだと新潟市だけではなくて、東京などの大都市も含めた全国一律の考え方になってしまうと思います。なぜ新潟市で花育に関して計画まで作成して推進するかということを考えてときに、やはりその背景には、新潟市が全国的な花の産地であるからというところが重要なのではないかと思います。オレンジの花の産地というところに、新潟市の花き生産に関する全国順位を示させていただきました。平成18年以降、国が市町村別の統計結果の公表を廃止したために、正確な統計データはありませんけれども、新潟県の中でも新潟市というのはチューリップや鉢花類が一番の産地ですので、全国の市町村別でもトップクラスであるということは間違いないかと考えております。

新潟市では、花育を推進することで、花の産業が発展し、これまで築き上げてきた歴史や文化を継承していくということが重要ではないかと考えております。また、新潟市には、身近に多様な環境があるのが特徴的です。全国一の田園を含めた自然環境をはじめとして、公園や公共施設では花だけではなくて緑にかかわれる場所がたくさんあります。新潟市は、昔の豪商の住まいが庭園としてたくさん残っていることも特徴で、新潟の複数の庭園が連携して魅力を創出する、ガーデンツーリズムということが今、推進されているのですけれども、そういう中でも新潟は、「にいがた庭園街道」ということで、市内の庭園がいくつも入っています。庭園には身近に多種多様な植物に触れることができるので、花育活動を行うには最適な場所なのではないかと考えております。あと環境は場所ではなくて、関わる人も重要になってきます。花や緑に関わる人数等の統計的なデータは、県内の花・植木小売業の従業員数しか把握できなかったのですが、そのほかにも委員の皆様のような花や緑に関する資格を持った方々がたくさんいると考えられます。私の仕事の関係で園芸福祉士という資格を持った人と関わらせてもらっているのですけれども、聞いたところ、新潟県の園芸福祉士は全国で5番目に多いそうです。このような方々が新潟市で花育を推進する核となり得るため、人財の財に財産の財を使わせていただきました。委員の皆さんは資格を持った中で新潟市の傾向をご意見いただければと思います。

この三つの歯車がうまく回ることが新潟らしい花育ではないかと考えています。しかし歯車が離れていてはうまく回りませんので、そのためにはそれぞれの関係団体が連携することで、歯車がかみ合ってしっかり回るのでないかと思っております。さらに歯車をうまく回すためには、やはり潤滑油が必要で、それが市民活動ではないかと考えております。

見附市にイングリッシュガーデンという施設がありますけれども、けっこうボランティアの方が積極的に運営にかかわっていると聞いております。新潟市も、まさにこ

	<p>の拠点施設である「いくとびあ食花」をはじめ、市内でそのような動きを活発化させていくということが必要になってくるのではないかと思います。そういう中で、花絵プロジェクトの花絵制作などは全国に誇れる取組みではないかと考えております。</p> <p>次に、右側に家計調査から切り花と園芸植物・用品の支出額について、新潟市と全国平均、これは都道府県所在地と政令市の比較ですけれども、そのグラフをお示ししました。第1次の花育推進計画が始まった2008年からの推移を示したものになっておりますけれども、切り花の支出額は全国平均を上回っているものの、ほぼ横ばいで推移しているという内容になっております。新潟市の特徴として、やはり花の産地と都市部が近接している、多様な環境がある、それなりの人口規模ですとか、花育の核となる人がある程度いると考えた場合、潜在的なポテンシャルというのは高いので、これらがつながれば、全国に誇れる花育が展開できるのではないかと考えております。本日、問題提起をさせていただきました。今後、2年をかけてこれまでの課題の整理ですとか、データを示すことで、新潟市が目指すべき内容を盛り込んだ第3次計画にしていきたいと考えています。以上で説明を終わります。</p>
中野会長	<p>以上のご説明に対しまして、質問やご意見等ございましたら、ぜひよろしくお願いいたします。今、ご説明にありましたとおり、今年度は委員改選のタイミングということもございますので、できれば参加している方全員からご意見をお伺いしたいと考えております。いかがでしょうか。</p>
中野（繁） 委員	<p>いろいろなことをやって、私も実は新潟駅でユリをだしたときに、風が通るのです。別に花が見えなくても、ユリの香りがぶわわとして、ユリのあるところを探しに行ったりしたのですが、今、チューリップがたくさん飾られていまして、いろいろなところで見るのですが。</p> <p>私、すごくばかなことを質問するのですが、今、コロナなどで人が動けないという状況の中で、花育としてマスターの予算が出せないような、お金がいっぱいあるという状況ではないのだけれども、その中で花の生産者もみんながいいようになるよということ、優先順位もあるのかもしれませんが、今、花をそういうふうに行っているの、今年いっぱい続けられるものなのですか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。今年、非常に大々的にできているのですけれども、これはコロナウイルスの補正予算で全部組んでいます。国のお金というところですが、国のほうでコロナに対応した何かのときに、お金も出してくれるので、それでできているという状況なのです。ですので、今は第3次補正までいっていますけれども、今後また、この状況が続くと、国のほうでも補正予算など組んだり、お金を組んで地方にコロナの対応をするよということによってくる可能性もあるのですけれども、特に新潟の場合は、先ほども申し上げましたとおり、冠婚葬祭がなくなって、特に切り花を生産されている皆様が大打撃を受けたということで、その方たちを支援するために花のいろいろなイベントをやっているというところがございます。その辺りは、たぶん、新花の玉木社長のほうがよほど詳しいかと思います。ずっと続けられるといいのですけれども、今、そういった事情でやらせていただいています。</p>
中野（繁）	<p>コロナ禍でまだどれだけ続いていくかわからない現状ですけれども、最後のお話の</p>

委員	<p>ところの新潟ってすごいのだということで今、見ていたのです。私はたまたま園芸店に勤めていまして、毎日、花を見ているようなとてもいいところにいるのですけれども、コロナ禍でもお金がそんなにかからなくても、先ほどおっしゃったような丁寧な花育もいっぱいあるし、種まき一つにしても、いろいろなことがあるのですけれども、少しの人では思うことはあっても、なかなかどうしていい分からない。少しでもよく、予算もたくさんないところで、お金もかけられない中で、何かいいことないかしらと思うとき、私は店にいるから、教室をやったときに、今年は春、教室の題目はあるのだけれども、種団子を頭の隅に置いてもらうような話し。そういったことを少しずつしていこうとか、自分で目標を立てたりするのですけれども、そういう小さなこともあるのですが、これだけの人がいる新潟ですから、何かもっと身近に、そして即戦力になれるようなことができたらいいなと思うのです。それで、この辺の方が率先して先に立ってもらって、そして小さな集まり、もっと小さな集まりの中で、そしてだんだん大きく広げていけるような、私は貧乏性なので、お金がかからなくて、それでいて丁寧なこと、小さなこと、何かできないかと思うのですけれども、何かいい方法をみんなで考えていけたらいいと思っている次第ですけれども、そんなことをいつも思っています。</p>
中野会長	<p>ありがとうございました。今のご意見に対しまして、事務局のお考え伺えますか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。先ほども佐藤から説明させていただいたのですけれども、市民の皆様が新潟市はこんなに花がすごいところなのだよということをまず理解していただくところからなのかと。そうすると知っていただくことで興味を持っていただいて、その次に参加してみようかなというお気持ちになっていただければと思いますので、そこもやはり市としてはPRしていく必要がともあるのだろうと考えています。あまりお答えになっていないかもしれませんが、おっしゃるとおりだと思います。ありがとうございます。</p>
中野会長	<p>ほかにご意見いかがでしょうか。</p>
玉木委員	<p>話を振られたみたいなので、コメントいたします。</p> <p>今年、いろいろな形で、見切り発車をして花の消費をやってきたわけですがけれども、先ほど、予算がないということでおっしゃっていましたがけれども、私も国の予算を頂いて、例えば、市場の中で花を飾って、生産者を助けるというようなプロジェクトに参加させていただいています。1,000万円の予算を頂いたのですけれども、結局は500万円くらいしか使えなかったということを経験してきましたし、コロナ禍でいつも、新花のほうで花育出前授業を小学校のほうで実行していたのですけれども、それが昨年、1件も来なかったということで、これも予算を頂いたのですけれども、どうしようかということで、この件に関しましては、飛び込みで調理師専門学校などのほうへメールを送りまして、一応、食と花は関係ありますよね。食卓で花を飾るような提案をさせていただきませんかということで、2校からぜひやってくれということで、県の予算と花き振興協議会の予算と国の予算を使って実行させていただきました。中には、小学校のときにあなたの花育出前授業を受けましたよというような生徒さんもおられて、やはり小さいときにそういったお花に携わる環境があったところは、大きくなっ</p>

	<p>でもお花を使う人が多くなっているということを実感しましたし、ぜひともこれは続けて、食と花、料理と花を何とか定着できないかと思っています。</p> <p>あとは、医療従事関係者でしたか。そういったところにお花を届けようと思ったのですけれども、やはり病院関係は出入りできない。それで介護施設のほうもすぐに話をしたのですけれども、やはりそこにも入っていけなかった。お花も飾れなかったということで、今、やっと少しではありますけれども、十日町の施設の人たちですけれども、無償でチューリップを10本ずつ宅配便でみんな送りつけて考えているところです。それでも皆さんよろこんでいただいて、写真を送ってくださったり、関心を頂いていますので、今年もスタートしましたけれども、新潟市でも医療関係のところがありますけれども、介護施設のところにもよければチューリップを送らせていただきたいと思っています。</p> <p>あとは全国的な流れですけれども、生産のほうはどんどん減っておりますし、輸入も商社の社長と話しましたが、輸入が増えているわけではなくて、昨年1年間1割減ということで話をしておりました。若い人が昨年、花を買ってくれる。特に植物に関して、例えば、多肉植物ですね。それを多く買ってくださるようになっているので、鉢物の関係者の人たちは、一生懸命どんどんこぼさないようにと売っています。切り花のほうは打撃が大きくて、今年の1月も全国的に対前年比で3割減くらいの状況になっていると思いますので、切り花に関しては厳しい状況が続いているのかなという気がします。一応、情報までです。</p>
中野会長	ありがとうございます。事務局のほうからお願いいたします。
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>玉木社長がおっしゃったとおり、花の業界というのが、今、本当に大変な状況にあります。それはコロナだからということではなくて、やはり生産者の方とか、出荷の数などが右肩下がりになっているという実態があります。花育をするにしても、生産をしている方たちを生かさないとできないのではないかと。そういう危機感がありまして、花の産地や産業ということも、花育をやるうえでは、土台というところであれですけれども、それがなければできないのだよということも本当に大事だし、大切にしなければいけないと考えておりますので、こういったことを示させていただきました。玉木社長、ありがとうございます。</p>
中野会長	ほかご意見いかがでしょうか。
坂上委員	<p>先ほどは、新潟市が花育をやる意味ということをおっしゃっていたのですけれども、私はすごくあるなと思ってまして、新潟市は人口が減っているというか、少ないということで、花育がすごく充実しているということが魅力の一つになるのではないかと考えています。コロナ禍で、いろいろな規制があったりして、心がつまらないような感じになると思うのですが、家にいる中で、花が家にあると、やはり気持ちが安らぐよねという話をよく聞いています。ですので、そういった家にいるという風習になっても、やはり新潟には花育というものが充実していて、いろいろな花の遊びができるのだということは、すごく魅力になると思います。ですのでぜひ花育をずっと続けていっていただきたいと思っています。</p>

	<p>先ほど、園芸福祉士という話があったのですが、実は私、ずっと前に園芸福祉士の初級園芸福祉士というものを取ってしまっていて、ずっと放置というか、何もしていない状態、稼働はしていない状態なのですが、園芸福祉士もすごく勉強されていると思うのですが、ほかにも生け花の先生であるとか、庭師や近所のおじいちゃんおばあちゃんとか、花育マスターという制度があるので、もっとそちらも活用して、そういう人たちも取り込んで、もっと充実した花育マスターにしていったらいいのではないかと思います。1か所から話を聞くだけではなくて、いろいろな多方面から聞いて、花育に関する充実というか、もう少し厚みを持たせて魅力を出せばすごくいいのではないかと思いますので、ぜひ新潟市の花育をあきらめるということはなく、引き続きやっていってほしいと思っています。</p>
中野会長	<p>ありがとうございました。事務局からいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。私が異動する前に移住の担当をしております、今、坂上委員がおっしゃったとおり、主に東京から新潟に移住してほしいということでいろいろやっていたのですが、新潟はどういったところに魅力を感じていらっしゃるかというと、やはり自然と都市機能がすごく近いところを皆さんすごく魅力に感じてくださっていました。</p> <p>今、坂上委員から言われて、私もはっとしたのですが、花にすごく近いということをあまりPRしていなかったなと反省なのですが、ただ、自然が近い、近いと言っても、具体的に何だろうと思われたかと思って、もっと花育はこんなことをやっているとか、こういういくとびあみみたいな施設があるということも、特に子育て世代の皆様には、すごく刺さることだと思いますので、そういったことも含めて、やはり新潟の花育が大事だということが続けていけたらと思いましたが、花育マスターの制度につきましては、少し予算が切られてしまったとか、なくなってしまったということがありまして、私どものほうでも大変な課題だと思っています。引き続き、事務局のほうでどのようにできるのかということを変更してまた考えていきたいと思っています。貴重なご意見ありがとうございました。</p>
中野会長	<p>ありがとうございました。ほかにご意見いかがでしょうか。</p>
須田委員	<p>花育を新潟はあきらめずにといいところは皆様の総意だと思うのですが、それをどうやって継続的にやっていくかということが難しいところだと思うのです。実は私、この数値、このカラーの新潟市が目指す花育で、新潟市はけっこう切り花を買っているのです。全国平均よりも上。これは2018年ですが、少し欠けるかなとびっくりしたのですが、現実問題、売れているのは、スーパーのパック切り花ではないかと思うのですが、それはたぶん、業者の方もほとんど利益に結びつかず、実際問題はなかなか1級品とか、ちゃんとしたところで使えないものの行き場としてはいいと思うのですが、そんなにきれいではないかと思うのですが、そのくらいの感動で花に親しみのある生活ができるのかということ。何か矛盾していますよね。必要なのですが、それでやはり現実問題とか、お財布事情もいろいろあると思いますし、そういったところなのかと。でもやはりそこからはじめないと難しいのかなというこ</p>

	<p>とも感じます。</p> <p>いろいろな方が関わってというところがもっと大事だと思うのですが、これはやはりみんなアプローチが違うから、現実問題は難しいと思うのです。少し前に何かで見たのですが、菖蒲のしつらえか何かで、新潟の某フリーペーパーですけれども、そのときに菖蒲の話をしているのに、写真に掲載しているのはアイリスとかなのです。でもいろいろな写真でも、松のフェイクを使ったり、そういうことが普通。世間の常識的なところだと思うのですが、私は池坊の中にいますけれども、松とヒバとイブキは神木とあって、絶対に侵してはいけないというか、そういうところに重きを置いているのですが、なかなか共通話題として難しいかなということもありますし、継続するということは、華道会もそうですけれども、長く続けるということは本当に大変なことです。……4回火事に遭って、4回目に建てられたものが今でも続いているということだったり、太平洋戦争のときは自分たちが持っている個展用の器。銅器をみんな提供して戦争に使われて、戦後はそれが東京タワーの展望台の上の原材料に使われているとか、そういう歴史があったり、だから有事のときに持っているものをみんな出し合っというくらいのことじゃないと、なかなか今の状況は打破できないかと思って、やはり具体的にいろいろな考え方があって、目指す方向ということをしっかり定めたいと、関係者を集めてしっかり2年間かけて議論していかないと難しいです。今の状況はコロナが終わっても、そんなに大きく状況が変わるとは思えないので、でも切り花の支出を見て、私は希望が持ててうれしいです。</p>
中野会長	ありがとうございます。事務局から何かありますか。
事務局	<p>ありがとうございます。須田委員のおっしゃるとおりです。今回、うちの500円のクーポン券を切り花の業界の方を支援するためには、お花をパッと買って展示すれば簡単なのですが、そうではなくて市民の皆様にお花のある生活を体験していただきたい。そういうきっかけになればと思って500円のクーポンで1,000円以上、お花を買ってくださるとやったのですが、結局、今の時点で1万枚くらいしか使われていないのです。ですので、新潟市民じゃないと使えないということにしているのですが、約79万人いる中で1万枚しか使われていないという数字が、花が嗜好品であるがゆえに、なかなか皆さんの生活になじんだり、定着したりということは非常に難しいものなのだということを実感しました。</p> <p>ですので、だからといって何もしないというわけには当然いかないのですが、何とか皆様の生活に定着して、業界も助けられる。潤っていったら、新潟市の大きな産業になっていくためには、やはり委員のおっしゃったとおり、今もそうですけれども、有識者の皆さんがいらっしゃいますので、皆様の目線の方向を定めてとおっしゃいましたが、次期の花育計画にもきちんと皆様と情報交換しながら方向性を定めて、皆様で協力して、そこに向かっていくという体制づくりが必要なのだと改めて思いました。ご意見、ありがとうございます。</p>
中野会長	ほかご意見いかがでしょうか。
岸本委員	今回、残念なことに報道席のほうがあいていたということで、この時期にどなたかの報道関係者が座ってくださったら、もっと何か発信できたかなというところの

	<p>1つの希望と、やはりメディアもうまく活用していく。そしてSNSでというところで、私もそういうものになかなか頭が回らないほうなので、どのように発信していったらいいのかなということが、まだ私の中では分からないのですけれども、私たちの生け花業界も、リモートでお花を生けてみよう、指導してみようかという、1対1ならいいのですが、多数は難しいというものが出てきたり、あと私たちの生け花の花材で、やはり伝統的につながっていく花材を生けて、使わなければ、生産者が続かないというところまで、実際に今来ていて、毎年この量は、この数は必ず使いますというところを生産者に出すから作ってくださいというところまで、私たちの流派も来ています。ですので、そういうところを含めて、必ず私たちの何かのイベントで、これだけの本数を使って売りますとか、そういうことを生産者に出していかないと、生産者も不安で、球根も植えられない、種も撒けないという、実際、コロナ禍で一番大変なときに食材を農家の人たちが捨てていたという映像を見た瞬間、背筋が凍るような形、食べ物でさえ、こんなになってしまうのだと思ったときに、やはり作ってくださる方がいらっしゃるなければ、私たちもやはりそしてそこで新潟が新潟の花というものを売り出していきたいということの希望を含めて、必ず何かのイベントには、これだけ使いますというものを提示できたらなと思っています。そして、やはりメディアを使って、皆さんに決して高度なものではない、お花を家に飾るということはテクニックなど、何か習いに行かなければいけないのかではなくて、気軽に生けられるというか、飾ってもいいのだよという、何か親近感を皆さんにどうか持っていただけるような方法はないかと思っています。</p>
中野会長	ありがとうございます。事務局からいかがですか。
事務局	<p>ありがとうございます。メディアに関しては、実は新潟日報から、今日、来たいという話があったのですが、別のものが入ってしまったようで、この場にはいらっしゃらないのですが、今後取材に来てくださるということでしたので、そこでいろいろお話しさせていただければと思います。</p> <p>生産者の皆様が大変だという状況は、やはりいろいろな方に聞けば聞くほど身にしみてきますので、そういったところもこういった計画に反映できるように検討できればと思います。貴重なご意見をありがとうございました。</p>
中野会長	ほかよろしいでしょうか。
横山委員	<p>先ほど、資料4を拝見して、本当に新潟はすごいし、まだまだ可能性があるけれども、すべてが大きすぎて、どうやってつないでいったらいいのかなということが、率直な感想でした。この委員会がそういった意味では、いろいろな業界の方のいろいろな立場の方がおられるので、かなり大きな要素になるのではないかと、まとめ上げるために、というような思いがいたしました。今、岸本委員がおっしゃった、言い尽くされていますが、メディア、SNSの活用。それを次の花育でも進めていただきたいなと思っています。</p> <p>あとやはり身近にお花があることが当たり前みたいな、そういう生活パターンを取るには、急に今日明日でできることではなくて、やはり10年、20年、生まれたときから家にお花が飾ってあったと後から思い出すもので、私もありましたし、大した家で</p>

	<p>はないですが。そういった身近にお花があるようなことを次の世代。それも言い尽くされていますが、次世代につなげていける家にお花があるということで、まず花育の第一歩なのかと、とても身近なところが第一歩なのかという思いもしております。</p> <p>いろいろな趣味の方がいらっしゃるの、すべての人にお花に関心を持ってもらうということは難しいのだろうとは思いますが。やはり好き嫌いはあっても当然ですが、それを言っても、お花を嫌いな人はいないということも素朴な思いであります。すみません、感想文みたいになりました。</p>
岸本委員	<p>すみません、まとめてお話しすればよかったのですがけれども、花の俳句ですけれども、私の身近な方にやはり小学生の方で俳句を楽しんでいるという子がいらっしゃいまして、花に関してという俳句を募集すると、普段見ない景色や香りや風やというもの子どもたちはすごくいろいろな感覚を持って見ようとか、感じようとかするので。そうすると、自然と花や自然に目が行く。普段も学校へ行って、帰ってくるだけの道なのだろうと思うのですがけれども。そして今、小学校などでは、書道大会とか、絵画の大会は、学校ぐるみでやりますよね。そのような形で、学校に1年に一回でもいいので、学校全体で俳句を募集してみませんかというところで、そしてそこで何か賞をもらった子には、何か賞状なり、どこかで俳句を飾ってもらうなりということをしてあげての学校ぐるみで俳句を募集すると、子どもたちは意外とそういうものに非常にアンテナを張って、いろいろなものを感じてくれる。そこからお花に興味を持ってくれるかなというところの期待も含めて、花の俳句はすごくいいことだと思いました。ただ、中を見て、県外の人が多かったとか、新潟県人は少ないのだなど思いながらも、これはもしだったら、身近な子に俳句をやっている小学生がいらっしゃったので、それも含めて、子どもたちに花に関する俳句を募集ということは続けていってほしいと。それも学校ぐるみで何か立ち上げられたらなどと思いました。</p>
中野会長	<p>ありがとうございます。事務局のほうからよろしいですか。非常に建設的なご意見ありがとうございます。ほかよろしいでしょうか。そろそろ時間が押していますので、次の議題に移りたいと思います。</p> <p>続きまして、(4) 令和2年度花育俳句優秀俳句選考について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料5をご覧ください。最終審査に当たりまして、皆様にはすでに配ってある資料ですけれども、概要を示させていただきました。すみません、ここで資料の訂正がありまして、2、応募結果ですが、応募者数と応募句数が逆になっていました。大変申し訳ございませんでした。左側が応募句数で、右側が応募者数になります。</p> <p>今回、花育委員の皆様にご審査していただいたのは、昨年度、施設に全部張り出して、一般市民に投票していただいたのですが、今回、コロナウイルスの関係もあって、なかなかそういう場をわざわざ作るのはいかがでしょうかということもあったので、花育委員の皆様にご審査をお願いしたものになります。事前に審査をしていただきまして、最終的には小学生の部で10句、一般の部で10句決めていただきたいと思います。全員にご審査していただいた結果が2ページ目と3ページ目になります。2ページ目が小学生の部の句、3ページ目が一般の部の句になります。一般の部については、ポイント</p>

	<p>数で上位8位が決まったのですけれども、次点が3つなので、ここをどうしていくかという辺りを花育委員の皆様にご協議いただければと思います。時間もないので、説明を以上で終わらせていただきます。</p>
中野会長	<p>こちらでもできれば全員の方に感想をお伺いしたいのですけれども、時間の関係上、なかなかそこまではできませんので、特にこういうような感想を持ったといった意見がございましたら、ぜひよろしくお願ひいたします。3人くらいよろしくお願ひいたします。</p>
須田委員	<p>感想を言うのですか、次点のほうを決めるのですか。すみません、話についていけなくて。</p>
中野会長	<p>こちらの方で、最近、投票していただきましたけれども、その集計結果がまとまりまして、大体、決定されているということですのでけれども、例えば、一般の部でしたら、要するに次点が同点の句が3つありますので、その辺りをどうするかですとか、もちろん感想でもけっこうですし、よろしくお願ひします。</p>
須田委員	<p>最初、冒頭でもこのことを申し上げましたけれども、こういう方たちに花育の新潟のこれを決めてほしいくらいです。目指すべき方向みたいな。言葉もよく選んであって、情景が浮かんで、とてもいいなと思いましたが、次点に関しても1位が3名ということでもいいのではないですか。1位を選ぶということは、それだけ印象が強いというか、さっと決めていいのではないかと思います。これと実際に、情景はこの一人の方で、俳句は言葉で情景を伝えるものですが、そういったものの写真でも何でもいから投稿するような、今、インスタをもっと取り入れないかというような話が少し前にもあったと思うのですが。あと気軽に、安く、かわいくという宣伝が、そうするとやはりインスタなどを作って、こういったものをどこかに掲示とかではなくて、インスタでこういう俳句を投稿したり、そういったものも運営していくような形であれば、それに費用がかからないしいいのかと。やはり気軽に、お金のかからない方法ということで、いろいろなことをやっていったらいいと思います。</p>
中野会長	<p>ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。</p>
横山委員	<p>審査基準は花や緑ということなのですが、読んでいて、もしかして新潟市の感じが入っているというか、チューリップとか、アザレアとか、新潟市特産のものが入っている審査基準もあっていいのかなとか、一瞬思い浮かんだのですが、雪椿とか。その辺、どのように考えか。そういう部分があってもいいのかと思いました。</p>
中野会長	<p>その辺りに関しまして、事務局のほうから何かありますか。</p>
事務局	<p>2年間やってすごく好評なので、そういった部分を見直して、今後、どのように続けていったらいいかということを考えながら、やっていきたいと思ひます。ありがとうございました。</p>
中野会長	<p>ほかいかがでしょうか。先ほど、事務局と須田委員からもお話がありましたけれども、一般の部の次点の同点の3句ですよ。中野個人としましては、小学生の部は決定となっていますが、その下に二つございますけれども、先ほど、岸本委員からもありましたけれども、ぜひ小学生の俳句につきましては、甲乙つけがたいかわいらしいものばかりですし、これも中野の個人的な意見ですが、小学生なのにこんなと</p>

	<p>というような感じのものがたくさんありますので、できれば全員決定ということで、反対のご意見がなければいいことだとさせていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。</p> <p>ありがとうございました。そうしましたら小学生の部、一般の部につきましても、このリストに載っているものをぜひ全員優秀賞決定ということでお願いしたいと思っております。ほかにご感想などございますか。よろしいでしょうか。</p>
委員	(異議なし)
中野会長	<p>最後になりますけれども、その他ということで委員の皆様から何かご報告があればよろしくお願いたします。</p> <p>ないようでしたら、これで本日の議事を終了させていただきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。</p> <p>それでは、事務局にお返ししたいと思います。</p>
司 会	<p>中野会長、委員の皆様、議事進行ありがとうございました。</p> <p>本日、頂いた意見を踏まえまして、第3次計画の策定を進めていきます。1次、2次と、1次は生みの計画、2次は育ての計画、今回3次は皆様の聞いている限り、攻めの計画なのかと思っております。ぜひ次回、委員選考はこれからですけれども、委員となられる方も、なられない方も、今までの意見、またいろいろと頂ければ、これからまた幅広の肉厚の計画になっていくと思っておりますので、今後ともご協力のほど、よろしくお願いたします。</p> <p>では、時間も迫ってまいりましたので、連絡事項が二つございます。一つ目は、今回の会議の報酬でございます。後日、指定の口座に振り込ませていただきますので、よろしくお願いたします。</p> <p>2点目は、こちら会場にいらっしゃる委員の方だけなのですが、駐車券に關しましては、受付の際に出した駐車券を無料処理して、受付のテーブルに置いてございますので、忘れずにお持ち帰りください。今日、かなり風も強くなってまいりましたので、お帰りの際、お気をつけください。</p> <p>以上をもちまして、花育推進委員会を終了いたします。お忙しいところ、まことにありがとうございました。</p>